

ボランティア

これからのイエス団が目指すもの

イエス団は、この4月から「112年目からの挑戦～2040年を目指して～」という5カ年計画を立て実践することになりました。その目的とするところは、これからの20年は、今後の日本及び世界を左右する大切な期間で、社会にいろいろと大きな課題が生じてきますが、そのような中にあってもイエス団の使命であるミッションステートメント2009（以下MS2009という）の実践が、ぶれないようにすることにあります。

「わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす」「わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす」「わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす」「わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす」「わたしたちは、平和をつくりだす」

MS2009は、賀川豊彦献身100年記念の時に「いま、賀川さんがいたら、何を考え、何を実践しただろう」という問い合わせから、まとめられたものです。MS2009が発表されたときは、あまり注目されなかった課題が、いま大きな関心を集めています。2040と2030です。

2040は、2040年問題といわれ、日本の人口が大きく減少するとともに、少子高齢化がさらに進むという課題です。限界集落という言葉があります。過疎化で人口の半数以上が高齢者となり、コミュニティ（一定地域で営まれている自主的な共同生活）の維持が困難になる状態を指します。2040では、限界集落と同じような状況が、都市部も含め、日本のいたるところで生まれるといわれています。

2030は、国連が採択したSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の目標達成年の2030年を意味します。地球上の「誰一人取り残さない」という誓いのもと、17の目標と169のターゲットから構成されています。1～6の目標は、貧困や飢餓など基礎的な課題、7～12の目標は、エネルギー、働きがいなど経済活動で取り組む課題、13～17の目標は、気候変動や海洋資源などグローバルな課題に対しての取り組みです。

111年前、たった一人で始めた人助けは、協力者（ボランティア）を得て大きな活動になるとともに、当事者同士による助け合いへとも発展しました。そして、それは保険という制度を利用し更に多くの人々による助け合いへとなり、



国民皆保険制度などにつながりました。しかし、それでも、ひとはしあわせになれません。世界平和が求められました。これは賀川さんの活動の軌跡です。一人のひとのしあわせは、世界平和がなくては成り立たちません。さらに、いまの時代は、すべてのものがグローバルに関連し合っています。

イエス団は、MS2009を国連のSDGsの目標とも連動してさせ、グローバルな視点からその実践を行うべく15カ年計画を進めます。「わたしたちの未来は、わたしたちがともに協力し合ってつくりだす」という営みといえます。

（社会福祉法人・学校法人イエス団 常務理事 高田 裕之）



特集 コロナ禍におけるそれぞれの取り組み

2020 年度、私たちはかつて経験したことのない脅威である新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、行動の自由を奪われたばかりか、生命の危機にも瀕し、あらゆる経済活動も制限されてしまいました。そんな中で、地域社会や関係する人たちに対して、私たちはどのような活動をしてきたのでしょうか？できたこと、できなかつたこと、そして何がわかり、今後どうしていけばよいのかなど、大いに考えさせられた年度でもありました。

ここに、その記録をお知らせしたいと思います。

■■■ イエス団本部事務局 ■■■

2020 年はじめ新型コロナウイルスという未知の感染症が、じわじわと私たちの周りを包囲し始めました。懸念を抱きながらも、2020 年 2 月 1 日には賀川献身 110 年の節目にイエス団大集会をコープこうべ生活文化センターの大ホールで開催し、イエス団のミッションを再確認し、仲間とともに交流を深めました。しかしながら、その後急激な感染の拡大により、2020 年度の多くの研修や集会は実施・開催を見送る形となり、また形を変えての実施となっています。

イエス団では 1 年を通じて、新任職員研修、ブラッシュアップ研修、リーダーシップ養成研修を宿泊を伴う形で、六甲研修センターあるいは大阪生野で行っていましたが、宿泊、地域での交流、ワークショップ、グループワークということが実施できず、2020 年秋になってようやく新任職員のフォローアップ研修を賀川記念館でオンライン参加者を交えて実施することが出来ました。

また、法人運営に欠かせない各種会議は、経営会議、施設長会議、理事会、評議員会など、イエス団が広域にまたがる施設を運営する法人であるため、府県を跨ぐ移動の懸念や特に京都、大阪、兵庫などの地域に施設があるため心配の声も多く聞かれました。そのため通常での開催が難しく、当初はメール審議や電磁決裁という方法も使いましたが、より効率的な方法として、オンラインでの会議の開催を取り組むことになりました。ここまで 1 年を経過し、オンラインでの会議運営によって完全対面ではないものの、リアルな協議が実施され、徐々に決裁過程が落ち着いてきた感があります。まだ、慣れないという方もいらっしゃいますが、今回の導入によって新たな会議や研修の運営の在り方のひとつとして活用できるのではないかと考えていますし、今後のあらたな運営の形になるのではないかと思っています。このコロナの対応の中で気付いたり利用できることを、普段でも多忙な福祉の現場で活躍される職員の皆さんのがんばるような方策として活用できるようになればと思います。

まだ、ワクチンの接種も皆さんにいきわたらず、先の見えない状況が続いている、不安はぬぐえませんが今しばらく工夫と対応をしていきたいと思います。

■■■ 賀川記念館ミュージアム ■■■

コロナ禍での賀川記念館ミュージアムの特徴的な活動

- ① 2020 年 3 月より団体の見学、講演を原則中止しました。
- ② 第 3 期語り部のための研修会を 5 回計画していたが、2 回になってしまいました。
- ③ 神戸市の小学校 4 年生社会の授業「わたしたちの神戸」で賀川豊彦の勉強が始まりました。タイトルは『共に生きる社会（賀川豊彦）』教科書 12 ページ分、2 学期の社会科の時間 1/3 を使って学習します。
- ④ 3 月教科書配布時、神戸市全小学校に『賀川記念館の協力』を送付の結果、9 校 12 クラスが来館し、訪問学習の 1 校を加えて 678 人が賀川豊彦について 60 分の講義を受けました。そして先生の下見も 11 回（21 人）を数えました。
- ⑤ 親子で来館する 4 年生の家族が多くなり、期間中 39 組になりました。親子での来館は今まで見られなかったことでした。



念願の「子どもたちに賀川豊彦の精神に触れてもらう機会」をスタート出来たので、2020 年は大変意義のある年になりました。この運動を続けて、神戸市の 163 校の約 1 万人の全 4 年生に賀川記念館に来てもらい、賀川先生に会ってもらいたいと願っています。その為にこれから、しっかりと準備をしていきたいと思っています。コロナ禍で却って小学校 4 年生のために集中した取り組みができたのも何かの兆しかもしれません。

■ ■ ■ はいす ■ ■ ■

「外国にルーツを持つ子どもの日本語学習支援」

賀川記念館の隣保事業の一つ「はいす」は、2020年度も無事に多くの方のお支えの下、事業を行うことが出来ました。いつも応援してくださる皆様、関わってくださるボランティアの皆様、事業運営に携わる関係者の皆様、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

日本で緊急事態宣言が出されたこの“コロナ禍”の中で賀川記念館も感染拡大防止の為閉館となり、その際に「はいす」も閉館期間は一時的に休業せざるを得ませんでした。学校も臨時休校の中、「はいす」に来る子どもたちが、どのように過ごしているのか、そして学習面において困っていないだろうか、など子どもたちの様子がとても気になったのを覚えています。そこで「はいす」では、ボランティアの先生方にご協力頂き、当時それぞれ担当している子どもに対して葉書を送ってもらう事にしました。それに対し、子どもたちからもたくさん返信がきて、「元気にはしています！」というような前向きなメッセージも多くありました。その様子で少しほっとしながらも、実情としては学校からもらった課題が分からない、いつ「はいす」は始まるの？などの問い合わせがあり、様々な困難な状況がありました。そのような状況から、「はいす」は感染症対策を徹底した上で、本当に困っている子を対象に少人数で、学校が始まるより早く事業を再開する事にしました。また全国の子どもたちも同じですが、子どもたちの中には日々のストレスで気持ちの面でも不安定な子が多くいたように思います。

そんな状況下の中でも「はいす」に来ている子どもたちは変わらず自分たちの学習や日本語を学ぼうと楽しく通ってくれています。その姿に元気づけられているなど感じています。この「はいす」が、彼らの「居場所」としても在り続け、私たちの「居場所」でも在り、少しでも自信を持って日本で過ごせるよう丁寧にサポートしていきたいと思います。また子どもたちが自分のルーツを大切にできるように心がけていきたいです。この“コロナ禍”ではもちろん大変な事もありました。またこれからも続していく部分があると思います。ですがこの時間は、活動の目的や意味を考え直す、そんな時間でもあった、そのように受け止めることが出来ました。まだまだ以前のような安心できる状態ではないですが、賀川記念館の隣保事業として、これからも関わる皆さんと一緒に精一杯活動していきたいと思っています。



■ ■ ■ 天国屋カフェ ■ ■ ■



天国屋カフェは、第2回の緊急事態宣言に伴い、前回と同様に休業を余儀なくされました。特に日本政府が「飲食」ということを強調されたので、1日の客が数名の弱小天国屋カフェもそれに応えざるを得ないという決断を迫られた次第です。

しかし、わたしたちのカフェは、飲食業を目的としたカフェではなく「みんなの居場所」を目的としてものです。2020年4月に第1回緊急事態宣言が発令された際に、誰もいなくなった居場所としてのカフェがその意味を問われ、この場を必要としている人が利用できない居場所とは何かを考え続けました。その痛い思いを繰り返さないために1月に発令された第2回目の緊急事態宣言下では、知恵を出し合い工夫をして、天国屋カフェの基本姿勢は、関わるすべての人々の思いをできるだけ尊重することを確認し、休業に入りました。

だから、一般向けには休業ですが、カフェを必要としてくださる限られた方々には予約制としました。また、コロナに對して理解がさまざまであることを前回痛感していましたので、誰でもが快くつながることのできる方法を模索し、SNSの中でもYouTubeのライブ配信を実施する準備をしました。日時は、週一度（基本木曜日）午後2時半頃～3時半頃です。配信を利用してくださる方が一人でもいれば、それで充分に役割を果たせると思います。現在は、このライブ配信の名前を考え中です。緊急事態宣言後、継続するかどうかは決めていません。あまり無理せず、できることは着実にトライしてみるという姿勢で取り組んでいます。

この経験から、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）がどれほどカフェの意義を救ってくれたことかと痛感します。そんな中で、神戸栄光教会は、天国屋カフェにiPad購入のための助成金を出してくださったことも大きな喜びです。iPad購入の準備も着々と進めています。

これからは、コロナと共に生きる日常を考えながら、息の長いお付き合いをするためにも、知恵と工夫がますます必要になるでしょう。今後ともに、よろしくお願ひします。

■■■二宮保育園■■■

2020年はコロナウイルスに翻弄された1年でした。保育園の運営については、国の動向をみて、神戸市と何回もやり取りをしながら、手探りで進めてきた感があります。その間、保護者のみなさんにも何度もお手紙を出しました。昨年4月に出された緊急事態宣言、4月14日からは人々が生活するのに必要な職種の方に制限された保育（特別保育）になり、宣言解除後、少し沈静化した中で年内を送り、年が明けて2021年、現在2度目の緊急事態宣言が出されています。

コロナ禍の感染予防対策と「保育」は相反することです。その中で可能な範囲で対策を取り、保育の質を保っていくことは難しいことです。そんな綱わたりの毎日が今も続いています。保護者のみなさんと職員と考えを共有しながらやつてきたように思います。以下、7月と11月に保護者宛に出したおたよりの文面です。ここから私たちの取り組みを見ていただければと思います。

「新型コロナウイルスと私たちの保育」(7月おたよりから)

新型コロナウイルスが世界的に感染拡大し、日本も緊急事態宣言を発出し、自粛期間が始まりました。そして感染拡大を防ぐために「三密にならないように」「ソーシャルディスタンスをとって」と言われ、これからに向けて「新しい生活様式」が示されました。しかし、ポストコロナへの道はそんなことでしょうか。感染拡大を避けるべく示された「新しい生活様式」だけではなく、コロナを経て私たちは何を学んだのでしょうか。

日本赤十字社のメッセージには、“新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！”と題して、病気そのものの顔、不安と恐れの顔、そして嫌悪・偏見・差別の顔があると警告を発しました。「自粛警察」、「不謹慎狩り」そして「正義中毒」という私たち人間の側面も露(あらわ)になりました。

私たちはコロナウイルスを経験して次の生き方を模索し始めています。しかし、コロナウイルスの感染拡大への対応は、人間のつながりを最小限にしていくための道に見えます。私たちは本来、温かさを幸せに感じ生きてきたはずです。子どもたちとの生活・保育の中で、ふれあいや接触を外して考えることは不可能です。肌と肌のふれあいやその温かさを感じ、またゆっくりと顔を見て話することで、子どもたちは安心し、先生たちを信頼していきます。危険を避け、安全を過度に重んじて、感染拡大を防止するための技術のみに心を奪われることがないように、これからのポストコロナ時代の中で、私たちは何を大切に保育をしていくのかを考えいかねばならない。子どもたちの健やかな成長を止めるような保育にならないように、“感染予防”という大義に惑わされないように、子どもたちにとって大切なことをしっかり守って保育をしていきたいと思います。ご理解とご協力をお願いします。

「パワフル！うんどうかい」～ふっとばせ～（12月おたよりから）

10月24日（土）に運動会を行いました。（中略）

運動会の最初のあいさつでお話しさせてもらったのですが（以前おたよりも書きました）、保育園での生活や遊びで「密」は避けることができません。保育の大切なことは「密」の中にある「ソーシャルディスタンス」の中にはないと思うのです。ぎゅっと抱きしめたり、抱っこしたり、タッチしたり、手をつないで歩いたり、しっかり顔を見てお話ししたり、先生の膝に座って絵本を読んだり、「おいしいねえ」って言いながら給食を食べたり、子どもたち同士で手遊びしたり、くつついたり、けんかしたり、肌のぬくもりを感じたり・・・、「密」になってやることがいっぱいあります。そんな中で子どもたちはやさしさとか、安心とか、気持ちよさとかを体験して、学んでいくのです。

二宮保育園では感染予防対策はしっかりやります。そして保育で大切なこともしっかりやろうと思います。だからこそキャンプも行くし、運動会もします（できる範囲ですが）。そこには子どもたちの健全な成長に欠かすことができない体験がいっぱいあるからです。お友達や先生と密に接して人がやさしいこと、温かいこと、安心できること、楽しいこと・・・、学んでいってほしいと思います。長引くであろう新型コロナの対応、人と人が離れ、ぬくもりのない社会にならないように、今こそ私たちの生活に何が大切な問いを聞いてみる時ではないかと思うのです。



念願のデッキが完成しました！（友愛幼稚園）

賀川記念館が建て替えをして11年目になります。友愛幼稚園の2階園庭デッキが、雨や日光の影響で、これまでにも何回か補修をしていましたが、傷みがひどくなっていました。

日々、裸足で元気に遊ぶ子どもたちなので、足を怪我しないか心配していました。補修の箇所が沢山出てきたので、思い切って全面的に工事をすることにしました。今回は「エコウッド」という雨にも強い素材を使いました。土曜日・日曜日も工事をしていただきました。平日、子どもたちは窓から工事の様子を真剣に見ていました。日々進んでいく工事を見て「どんな風になるのかな・・」「工事の人すごいな～」と目がキラキラしていました。床板が全部外され作業が進み、そして…2月1日月曜日の午前中に完成しました。



子どもたちは、「わー。すごい！！」「きれい！」と大喜びでした。仕上げの作業をしていた方に子どもたちは、口々に「ありがとう」と伝えて工事の方は笑顔で答えてくれました。毎朝登園してきて、デッキを見て「きれい」とつぶやいて通っている乳児クラスの子どももいます。

みんなの嬉しい気持ちが、デッキで遊ぶ様子に表れています。乳児クラスの子どもたちがよちよち歩いても安心です。子どもたちにとって危なくないように、細心の注意を払って工事していただきました。感謝して大事に使いたいと思います。

大盛況！福音落語



去る12月5日、天国屋カフェ主催で「福音落語」を開催しました。落語はアマチュアのゴスペル亭パウロ（本名小笠原亮一さん）。パウロさんとお知り合いになったきっかけは「賀川豊彦」です。賀川との関係は色々とあるようで、大学卒業論文のテーマが「賀川豊彦と生活協同組合」だったことや、就職先が生活協同組合だったということが大きいようです。そして、何よりも、前賀川記念館々長で賀川豊彦のお孫さんである賀川督明さん（故人 2014年9月17日召天）との出会いから、必ず福音落語「賀川豊彦とハル物語」を賀川記念館で公演すると固い約束をされていたとのことでした。

そんな縁があって、この度やっと実現したというわけです。
実は、2年前より天国屋ナイトカフェで福音落語を実現したいとのご要望を受けていたのですが、ナイトカフェの催し予約がいっぱいです。
2020年12月までお待ちいただくことになったのです。それなのに、
新型コロナウィルスの関係で、危うく中止になるところでした。しかし、
パウロさんの熱意と皆さんの願いが、困難の中でも実現にこぎつけました。

当日は、コロナの影響が心配されましたが、予定していた30人の客席が満席になり、喜びにあふれました。また、パウロさんの熱のこもった語りと観客の熱心な様子が、会場の雰囲気を盛り上げてくださいました。

現在は、賀川豊彦の落語第二弾を構想中との情報も入っています。次回はコロナ収束後に、会場に入り切れないほどたくさんの方をお迎えしたいと思います。



2020 年度賀川記念館 賛助会から

いつも賀川記念館をお支えいただきありがとうございます。

2020年12月1日より2021年2月28日までの報告をさせていただきます。

賛助会費	910,000 円
寄付金	1,076,405 円
クリスマス献金	142,088 円
真愛ホーム・友愛幼稚園・その他の寄付	516,670 円
総合計	2,645,163 円

これからも皆様のお支えにより、様々な活動を行ってまいります。今後とも引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

賛助（団体）：

共栄火災海上保険（株）神戸支社、神戸国際キリスト教会、（株）コープエイシス、（株）ジャクエツ神戸店、生活協同組合コープこうべ、（株）多い夢、津野・倉本会計事務所

賛助（個人）：

赤本公孝、阿部洋子、綾目広治、荒木郁子、飯塚修三、井塚栄子、石端利臣、磯田律子、磯部卓三、磯前則光、今井牧夫、岩木英一、上田敏昭、後地勇、小笠原浩一、岡山泰典、小川直子、小澤幸次郎、河谷保、河谷里美、川端俊之、小林昭洋、佐藤悦子、志方京三、茂里圭子、島田恒、杉野高司、角本稔、関紀美子、田中京子、田辺健二、谷田志津代、辻本文夫、中井福美、中田詩乃文、中西勇、中村昌宏、名越信次、西内芳子、西垣光代、西田登紀子、西村風胡、元正章、服部康喜、檜山秋彦、廣瀬間左江、富士本利子、堀俊朗、丸山サトミ、村岡敏子、森文子、森本芙紗子、山田達造、横谷昇、米田成己、李善恵、（匿名1名）

寄付金（団体）：

朝日教会、西宮一麦教会、グローバルミニストリーズ、（株）ディ・オー、葺合地区更生保護女性会、みどり野保育園

寄付金（個人）：

Alma Reville Otero、秋山也寸子、石若義雄、植本卓雄、大野義明、大平久司、上内鏡子、河合成一、小城智子、近藤孝子、酒井明子、酒井宏、谷内山恵、辻本文夫、所崎旦、原田好司、三上展、村上真理子、村瀬義史、山口則子、祐村明、（匿名2名）

真愛ホーム・友愛幼稚園・その他寄付：

海星学園如己の会（団体）、荒内直子、伊賀英子、紀伊茂、竹谷俊彦、横山昌彦

クリスマス献金（団体）：

愛之園保育園職員一同、あゆみ幼稚園、一麦保育園、関西学院宗教活動委員会、日本基督教団枚方くずは教会、甲子園二葉幼稚園、神戸イエス団教会、日本イエス・キリスト教団垂水教会婦人会、甲子園二葉教会、友愛幼稚園

クリスマス献金（個人）：

飯岡聰、池本正人、西垣光代、西田登紀子、本城智子、矢野幸治、矢野寛子

※お名前は五十音、敬称略になっております。掲載には十分注意しておりますが、誤り等ございましたら何とぞお許しください。また、事務局までお知らせくださいようお願いいたします。

よろしくお願い致します。

2020 賀川記念館の歩み

12月

15日（木）なぎさ小学校①（見学、説明）

17日（木）〃 ②（〃）

22日（月）〃 ③（〃）

24日（木）宮本小学校（見学、説明）

※1月は特記することはありませんでした。

2月

26日（金）駒ヶ林小学校（出張学習）

3月

20日（祝）奈良コープ（見学、説明）

24日（水）和歌山生協連（出張）

29日（月）第3期語り部研修

記念館ミュージアム入場者数

12月一般 59名 団体 171名 行事 120名 合計 350名

1月一般 34名 団体 0名 行事 120名 合計 154名

2月一般 32名 団体 0名 行事 115名 合計 147名

3月一般 5名 団体 0名 行事 35名 合計 40名

発行日 2021年3月26日

発行者 馬場一郎

発行所 賀川記念館

〒651-0076 兵庫県神戸市中央区吾妻通5-2-20

tel : 078-221-3627 fax : 078-221-0810

ホームページ <http://core100.net>

お問い合わせ E-mail office@core100.net

